

NPO法人 熊本まちなみトラスト
第30回理事会(190624)出欠表

氏名	理事会 190624 出欠	出席 人数	委任 出席 人数
1 青木勝士	○	1	
2 麻生田栄壽	○	2	
3 伊藤重剛	× 事務局長		
4 磯田桂史	○		
5 磯田節子			
6 岡裕二			
7 工藤栄一郎			
8 幸田亮一	× 事務局長		
9 西郷正浩	○		
10 柴田祐			
11 竹田宏司	× 事務局長		
12 田中尚人			
13 鄭 一止(いるじ)	○		
14 辻 泰明	○		
15 豊永信博	○		
16 長野聖二			
17 西嶋公一			
18 富士川一裕	○		
19 藤本秀子			
20 松波大仁	○		
21 宮野桂輔	○		
22 宮本茂史			
23 矢野和之			
24 山田穰	○		
25 吉野徹朗			
1 荒木幸介			
2 齊藤修	×		
会員(コア会員)			
1 本田憲之助			
2 森 純子			
3 両角光男	○		
4 上野美恵子			
5 上農淑子			
6 清水照親			
7 坂口秀二	○		
8 西島衛治			
9 西島真理子			
10 早川祐三	当方からのメール届かず		
11 松崎範子			
12 清永泰弘			
13 古賀元也			
14 濱田康成	当方からのメール届かず		
15 中田浩毅			
16 東久美子	当方からのメール届かず		
17 伊原登志郎			
18 石原靖也			
19 佐々木翔多			
20 反後人美			
21 三國隆昌			
22 池田由美			
23 黒瀬商店			
24 田中達俊			
25 原野利一			
26 高田真人			

本日は理事長副理事長欠席なので
議決事項ナシの協議のみとします。

本日の協議事項

- ①部会の活動現状と今後の再編
- ②今年度の(復興)イベント

◆報告事項

事務局・・・総会後の発送作業
助成金の申込、採用
地域創造共生助成金・・・採用ならず
現在のところ次の申請ナシ
講習会等への参加
7/1認定NPO説明会 等

◆今後の予定

7/4月・・・旧住友協議会

◆前回(5/27)以降の経過

5/29KMT事務局会議/
以降6/5、6/12、6/19
(被連協部会)
5/28 被連協清永部会(81回)/
以降 6/4(82回)、6/11(83回)、6/18(84回)
(歴まち部会/住友部会)
5/29県大イルジ先生+学生との研究会(県大GPの一環)

理事 11 (+3委任状出席=14) 理事総数24
会員 2
合計出席者 13
プラス事務局員1=人

2019年6月例会 2019-06-24 @熊大まちなか工房

協議事項1:部会再編について

①被連協アンケート(別紙)

イコモスアンケート回答者=森本、...地震後の対応、復旧の現状... 参照すべし

アンケート票最終案 作成 (フォントについて)

実施計画

アンケート配布・回収・集計・提案書・提案書での呼びかけ

訪問・面談(対面式)

... 調査員 崇城大:古賀先生、県大:イルジ先生、学園大:...学生

根回し(実施の予告) ...いきなり感を払拭する必要

②部会の活動現状

・歴まち部会

・住友部会

・アーカイブ部会

・広報部会

③財務強化・組織強化に関する新しい部会の必要性

④被連協改組の想定

仮説...歴史まちづくりネットワーク(略:歴まちネット)

⑤改編案

歴史まちづくり部会...被連協・歴まち・旧住友を統合

研究部会...アーカイブ、県大 GP...

財務・組織部会 ★求むリーダー

広報部会

協議事項2:今後の(復興)イベント

①明八橋橋上イベント

②年末PS復旧達成+カリーノ イベント

会員アンケート ～ 新たなる創造的復興に向けて ～

会員各位

熊本地震から3年2ヶ月が経過しました。早々に復旧を果たされた方がおられる一方、現在復旧工事中の方、まだ多くの課題を残す方など、会員の方の復旧復興は一樣ではありません。また、やむなく解体を決意された方もおられますし、復旧工事中に火災で全焼した方もおられます。

当協議会は、未指定文化財の所有者の皆さんを中心に、情報を共有し、お互い励まし合って未体験の震災からの復興に立ち向かうこと、未指定文化財に対する復旧費用の補助制度の創設を目的に設立されました。その意味では初期の目的は果たしたのではないかと思います。あらためて皆様のご苦勞に敬意を表します。

被連協の将来を考えるにあたって、現状を整理しておきます。

【現状】

この間の活動を通じて、下記のような様々な課題や障害が明らかになりました。

1. グループ補助金は早い時期の復旧に効果があったが、対象が事業所に限定された。
2. 未指定の文化財を対象にする文化財補助金（熊本県）は、画期的な制度の創設となったが、運用開始に時間がかかった。
3. 熊本市の町屋復旧補助制度も、運用開始に時間がかかった。
4. 「公費解体」制度の申込期限が再建の意欲を削ぐ形で働いてしまった。
5. 復旧工事の方法については建築基準法などの規制が障害になる。
6. 生業の継続が難しかった場合には、再建後の採算のめどが立たない。
7. 後継者に課題があった場合には、短期間での意思決定が困難であった。
8. 再建後に新たな形態での利活用を図ろうとしても、短期間でめどをつけることは困難。

このような困難の中で多くの町屋が解体され、地域には空き地や駐車場が目立つようになり、個々の建物の保存という次元を超えた**エリアとしての課題**も浮上してきています。

一方で文化財としての価値を確認し、地域を挙げて保存・利活用を図るためには、新たに移住してこられたマンションなどの住民の方々を含む**市民の幅広いご理解**とご支援が欠かせないということも実感されてきました。

【環境】

「創造的復興」を掲げた県は、地震直後の日本イコモス国内委員会の提言を受ける形で被連協の活動にも注目し、現在に至っても小野副知事を筆頭に、文化課などが前向きな対応を続けています。

市も基本的な復興政策を続けながら、被連協などの問題提起に応える形で「歴まち法」の適用認定に動いています。更に商工会議所と経済同友会が策定した「熊本市中心市街地ランドデザイン2050」という提言を受けて、熊本駅周辺再開発と桜町再開発を睨んだ活性化に取り組んでいます。

【 これからの被連協 】

このような課題と環境の中で、当初の復旧から、新たな発展を目指す活動への切り替えの時期が来ているのではないのでしょうか。会員の皆様のご意見を伺いたいと思います。単純に考えて、下記の3つの方針が考えられます。

1. あくまで現状の被災文化財所有者等連絡協議会を維持し有効な利活用に向けた活動を増やす。
2. 被災文化財に限らない、旧住友銀行支店社屋や長崎次郎書店などの歴史文化遺産所有者等の組織に改組するため発展的に解消し、復旧から復興に向けた新たな文化財の活用を目指していく。
3. 解散する。

あなたが望ましいと考える順番に、番号で記述してください。 【 → → 】

これから取り組むべき課題として必要だと思うもの全てに○をつけてください。

- | | | |
|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> 追加的支援の獲得 | <input type="checkbox"/> 地元住民との連携の強化 | <input type="checkbox"/> 地区の活性化への取り組み |
| <input type="checkbox"/> 利活用方法の開発 | <input type="checkbox"/> 文化財の価値の再発見・広報 | <input type="checkbox"/> 「歴史まちづくり」への取り組み |
| <input type="checkbox"/> 地域内での新たな連携の模索 | <input type="checkbox"/> 他地域との連携 | <input type="checkbox"/> 他分野との連携 |

あなたが抱える課題について具体的に記述してください。

あなたが期待する活動について具体的に記述してください。

皆様のご意見を基に、これからの活動についての提案を作成してまいります。ご協力、ありがとうございました。